

事務事業一覧表

施策コード	事業名称	部局名	所属名	シート区分	ページ
32213	道後温泉活性化事業	産業経済部	道後温泉事務所	シートB	2
32213	道後賑わいまちづくり事業	産業経済部	道後温泉事務所	シートB	4
32213	新型コロナ対策事業(道後温泉活性化対策)	産業経済部	道後温泉事務所	シートA	6
32213	道後温泉地域振興事業補助事業	産業経済部	道後温泉事務所	シートA	7
32213	道後村まつり事業補助事業	産業経済部	道後温泉事務所	シートA	8
32221	浴場管理事業	産業経済部	道後温泉事務所	シートA	9
32221	物品販売事業	産業経済部	道後温泉事務所	シートA	10
32221	源泉管理事業	産業経済部	道後温泉事務所	シートA	11
32221	源泉井戸及び分湯場施設改修事業	産業経済部	道後温泉事務所	シートA	12
44121	道後温泉本館保存修理寄附推進事業	産業経済部	道後温泉事務所	シートA	13
44121	道後温泉本館保存修理事業	産業経済部	道後温泉事務所	シートB	14

令和4年度	部局等名	産業経済部	課等名	道後温泉事務所	担当グループ名	道後温泉活性化	連絡先	921-0101	
	部等長名	宇野 哲朗	課等長名	兵藤 一馬	リダー名	主幹	菅 潤治	担当者名	主査 徳岡 秀俊
令和3年度	部局等名	産業経済部	課等名	道後温泉事務所	担当グループ名	道後温泉活性化	連絡先	921-0101	
	部等長名	家串 正治	課等長名	山下 勝義	リダー名	主幹	菅 潤治	担当者名	副主幹 越智 文子

1. 事業概要【Plan】 ※令和3年度の内容

事務事業名(施策コード)	32213	道後温泉活性化事業	事業性質	1-1:自治事務(実施規定なし)	事業区分	5:補助金・負担金
基本目標	地域の魅力・活力があふれるまち【産業・交流】		笑顔プログラム	126	個別プログラム	笑顔が集まるプログラム
政策	都市全体の価値と魅力を向上する				重点プロジェクト	元気な産業とやりがい十分な仕事がつくる成長するまちづくりプロジェクト
施策	観光産業の振興		市長公約	421	主な取り組み	戦略的観光振興の推進
主な取り組み	観光都市としての魅力向上				元気な産業を応援し、成長する松山をつくります	
取り組みの柱	アートイベントや「営業しながらの工事」を最大限に生かした取り組みなどにより、道後温泉本館の保存修理工事期間中の観光誘客を図るとともに、「道後温泉別館 飛鳥力湯泉」を活用し、日本最古といわれる道後温泉の歴史と新たな温泉文化を発信するなど、道後温泉地域の活性化を図ります。		③ 全目的にも数少ない、入浴できる重要文化財である道後温泉本館をしっかりと次代に引き継ぐため、保存修理工事を着実に推進するとともに、工事中は、話題性のある観光地としての認知度の向上と「営業しながらの工事」という希少性を生かした本館の観光資源化による誘客策を引き続き推進します。また、工事後を見据え、「本館」だけでなく、地区内に点在する歴史的観光資源の情報発信や魅力的な歩行環境の整備等、道後温泉地区全体の新たな魅力向上による観光まちづくりに、官民が連携して取り組みます。			
総合戦略	3223	基本目標 ③魅力ある仕事と職場をつくる(地域経済活性化) 政策 ②産業の競争力強化(業種別取組) 施策 ②戦略的観光振興による域内経済活性化	取組み	③ 全目的にも数少ない、入浴できる重要文化財である道後温泉本館をしっかりと次代に引き継ぐため、保存修理工事を着実に推進するとともに、工事中は、話題性のある観光地としての認知度の向上と「営業しながらの工事」という希少性を生かした本館の観光資源化による誘客策を引き続き推進します。また、工事後を見据え、「本館」だけでなく、地区内に点在する歴史的観光資源の情報発信や魅力的な歩行環境の整備等、道後温泉地区全体の新たな魅力向上による観光まちづくりに、官民が連携して取り組みます。		
総合計画の実施計画掲載有無(R3)	1:有り	重点的取組事業該当有無(R3)	1:有り			
根拠法令,条例,個別計画等	道後温泉活性化計画					
事業の目的(どのような状態にするか)	観光地間競争の激化による観光客の減少や、道後温泉本館の保存修理工事に伴い予想される観光産業や地域経済に及ぼす影響を踏まえ、平成27年5月に策定した「道後温泉活性化計画」及び「魅力の向上、賑わい創りの総合的な対策」などに基づき、道後温泉地区を活性化する取組を行う。					
背景(どのような経緯で開始したか)	道後温泉本館の保存修理工事期間中に予想される観光客等の減少を軽減させるため、「道後温泉本館工事計画の基本方針」及び「道後温泉活性化計画」に基づき事業を実施し、経済的影響を最小限に止める必要がある。					
対象・事業内容(誰に対して、何をやるのか)	平成27年5月に「道後温泉活性化計画」及び「魅力向上・賑わい創りの総合的な対策」を、平成28年10月には「道後温泉本館工事計画の基本方針」を策定し、本館保存修理工事による経済的影響緩和に向けた取組を行う。 ・道後温泉本館保存修理工事期間中、本館保存修理工事を活用した観光資源化事業「道後REBORNプロジェクト」を実施した。(委託料支出先:株式会社ポニーキャニオン) ・道後温泉本館保存修理工事期間中、「道後アート事業」と「観光資源化事業」の特長を活かし、統一したコンセプトで地域全体で官民が連携して「未来へつなぐ道後まちづくり事業」を実施する。(負担金支出先:未来へつなぐ道後まちづくり実行委員会) ・道後温泉活性化まちづくり促進事業、伊佐庭如矢顕彰事業など、地元団体(道後温泉旅館協同組合、道後商店街振興組合など)等との協働事業による賑わい創出に取り組む。					
受益者負担の状況	負担の有無	2:無し	「有り」の場合、基準や金額等「無し」の場合、その理由	本事業で市から直接のサービスを受けている受益者からの相応の負担が無いため		
始期・終期(年度)	平成 24	～	令和 6	終期の種別	2:事業の継続・終了の検討時期	

2. 事業実施に係る資源の投入量【Do】

予算科目	会計	一般会計	款	商工費	項	商工費	目	商工振興費	R3 予算措置時期	当初
				R2年度		R3年度		R4年度		
現計予算額(A)(単位:千円)				219,317		170,790		158,632		
決算額(B)(単位:千円)				195,609		155,512				
内訳(単位:千円) ※R2→R3 決算内訳, R4→予算内訳	国支出金		68,732		56,050		62,985			
	県支出金		3,000		1,000		0			
	市債		0		0		0			
	その他		0		0		57,500			
一般財源		123,877		98,462		38,147				
主な経費(単位:千円) ※R3→決算,R4→予算				・負担金109,767千円 ・委託料37,982千円		・負担金130,609千円 ・委託料14,263千円				
特記事項(単位:千円) ※繰越,補正,流用,事業統合等										
予算執行残額(単位:千円)		(A)-(B)		23,708		15,278				

※決算額(内訳含む。)は四捨五入のため、実際の額とは異なる場合があります。

3. 前年度(R3年度)の事業検証・改善【Check・Action】

主な取組内容	・未来へつなぐ道後まちづくり事業(「みんなの道後温泉 活性化プロジェクト」)に産官学金が連携して取り組み、観光消費を増やし、域内経済循環を広げながら、人材を育成して、持続可能なまちを目指す) ・道後REBORNプロジェクト(道後温泉本館保存修理工事の情報発信) ・持続可能な道後温泉協議会(産官学が連携し、ひみつじャイ基地の活用やイベントの開催により、多様な人々の交流を生み出し、上人坂に人の流れを創出するとともに、SDGsを推進し、持続可能な道後温泉を目指す)					
主な取組内容の達成度	→	↑:年度当初目標以上 →:年度当初目標どおり ↓:年度当初目標以下	左記の理由として良かった点,悪かった点など	新型コロナウイルス感染症の感染拡大を踏まえ、適切な実施時期の調整に加え、マイクロツーリズムの推進、関係人口の構築、オンラインの活用など、時勢にあわせた取組を推進した。		
施策への貢献度(目的の達成度を含む)	1:貢献している	左記の理由		道後温泉本館保存修理工事の影響緩和と道後温泉の魅力創出・発信につながっている		
事業の公共性	必要性	2	1:日常生活に不可欠(必需) 2:日常生活に不可欠ではない(選択) 3:どちらにも該当しない	公益性	2	1:より多くの市民に提供(共同型) 2:特定の個人・団体等に提供(個人型) 3:どちらにも該当しない
R3年度終了までに把握している環境の変化,障害,課題となっている事項	・新型コロナウイルスの感染症の感染拡大の局面では、誘客事業での感染対策の徹底や事業実施に柔軟な対応や工夫が必要となっている。		環境変化,障害,課題等解決のため,R4年度で取組む改善策		・ガイドラインの整備など、新型コロナウイルス感染症に対応した活性化事業の実施	
R4年度の目標	・道後温泉地域全体で連携して道後温泉本館保存修理工事期間中の活性化策「みんなの道後温泉 活性化プロジェクト」を実施するほか、道後温泉の魅力を広げPRするなど、道後温泉活性化に向けた取組を行い、本館保存修理工事による経済的影響を緩和する。		R4年度の主な取組内容(予定含む)		・未来へつなぐ道後まちづくり事業 ・持続可能な道後温泉協議会 ・外湯3館の魅力発信 ・訪日外国人旅行者を含む道後への旅行者のための情報発信や受入環境の充実	

【活動指標】とは…事業の具体的な活動量(アウトプット/「市」が何をしたか)
 【成果指標】とは…事業実施により得られる成果(アウトカム/活動の結果、「市民等」がどうなったか)

<業績の分析>

目標達成度	指標名	単位	区分	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	最終目標		
活動指標 (3つまで設定可)	道後温泉活性化事業進捗率	%	目標値	80	80	85	90	95	目標値	100	
			実績値	80	80	85			達成年度	R6年度	
		達成度	100	100	100						
	指標の種類	3.累計での増加を目指す指標				最終目標値の設定の考え方		令和6年度の事業完了を計画している。			
	本指標の設定理由	当事業の進捗率を示す指標である。									
	アート作品数(プロジェクト実施回数)	件	目標値	30	50	50	50	50	目標値	50	
			実績値	54	67	53			達成年度	R6年度	
		達成度	180%	134%	106%						
	指標の種類	5.現状維持を目指す指標(増を良しとする)				最終目標値の設定の考え方		地区内にアート作品やプロジェクトが展開され、活性化することを目的としている。			
	本指標の設定理由	地区内のアート作品やプロジェクトの展開状況を示す指数である。									
		目標値							目標値		
		実績値							達成年度		
		達成度									
指標の種類					最終目標値の設定の考え方						
本指標の設定理由											
成果指標 (3つまで設定可)	道後地区の宿泊者数	人	目標値	800,000	800,000	800,000	800,000	800,000	目標値	800,000	
			実績値	762,606	502,550	375,683			達成年度	R6年度	
		達成度	95%	63%	47%						
	指標の種類	5.現状維持を目指す指標(増を良しとする)				最終目標値の設定の考え方		事業取組前を下回らないことを目標とする。			
	本指標の設定理由	当事業による、道後温泉地区への観光客数を示す指標である。									
			目標値							目標値	
			実績値							達成年度	
			達成度								
	指標の種類					最終目標値の設定の考え方					
	本指標の設定理由										
上記指標の実績に対する評価(達成又は未達成要因の分析)	活動指標	平成24年度より事業を予算化し、継続実施している「道後温泉まちづくり事業」など「道後温泉活性化計画」に基づいて、道後温泉への誘客に取り組み、松山市の観光客数の維持に努めた。活性化事業は予定通り進捗しており、新型コロナウイルス感染症の影響がある中、時機を逸することなく各種プロジェクトやアート作品展示を実施し、道後温泉本館保存修理工事の観光資源化、道後温泉地区の魅力創出、関係人口拡大の取組などを積極的に行った。									
	成果指標	工事仮設物の修景化やアート作品の展示、関係人口構築の取組など、話題性のある事業を実施し、また、道後温泉地区の魅力や本館保存修理工事でしか見ることができない魅力ある情報などをPR・プロモーションすることで県内観光振興や賑わい創出に取り組んだが、感染拡大局面での道後温泉施設等の臨時休館、全国的なイベントや移動の制限による観光需要の減退などで、道後温泉地区の宿泊者数の増加には繋がらなかった。									
上記の指標以外に、指標では表すことができない定性的な成果がある場合、その内容											

令和4年度	部局等名	産業経済部	課等名	道後温泉事務所	担当グループ名	施設管理	連絡先	921-5151		
	部等長名	宇野 哲朗	課等長名	兵藤 一馬	リーダー名	主幹	担当者名	副主幹	寺井 修二	
令和3年度	部局等名	産業経済部	課等名	道後温泉事務所	担当グループ名	施設管理	連絡先	921-5151		
	部等長名	家串 正治	課等長名	山下 勝義	リーダー名	副主幹	担当者名	主査	寺井 修二	技師 野本 健

1. 事業概要【Plan】 ※令和3年度の内容

事務事業名(施策コード)	32213	道後賑わいまちづくり事業	事業性質	1-1:自治事務(実施規定なし)	事業区分	4:工事(工事に伴う設計委託含む)	
基本目標	地域の魅力・活力があふれるまち【産業・交流】		笑顔プログラム	126	個別プログラム		笑顔が集まるプログラム
政策	都市全体の価値や魅力を向上する				重点プロジェクト	元氣な産業とやりがい十分な仕事がつくる「成長するまちづくり」プロジェクト	
施策	観光産業の振興				主な取り組み	戦略的観光振興の推進	
主な取り組み	観光都市としての魅力向上		市長公約	421	元氣な産業を応援し、成長する松山をつくります		
取り組みの柱	アートイベントや「富麗しなからの工事」を最大限に生かした取り組みなどにより、道後温泉本館の保存修理工事期間中の観光誘客を図るとともに、「道後温泉別館 飛鳥湯泉」を活用し、日本最古といわれる道後温泉の歴史と新たな温泉文化を発信するなど、道後温泉地域の活性化を図ります。				瀬戸内・松山構想や道後温泉本館保存修理工事の影響緩和策など、戦略的な観光振興を進めます。また、クルーズ船の誘致や台湾との交流促進など、インバウンド対策を強化します。		
総合戦略	4411	基本目標 ④住み続けたいまちをつくる(持続可能なまちづくり) 政策 ④近隣地域との連携による経済・生活圏の形成 施策 ①連携中枢都市圏構想の推進	取組み	① 松山圏域(松山市、伊予市、東温市、久万高原町、松前町及び砥部町)が連携し、それぞれの地域が持つ特色を生かした魅力ある圏域づくりを進めることで、圏域の人口減少に歯止めをかけ、将来に向けて持続可能な地域社会の形成を目指します。			
総合計画の実施計画掲載有無(R3)	1:有り		重点的取組事業該当有無(R3)	2:無し			
根拠法令,条例,個別計画等	道後温泉活性化計画						

事業の目的(どのような状態にするか)	観光地間競争の激化による観光客の減少や、道後温泉本館の保存修理工事に伴い予想される観光産業や地域経済に及ぼす影響を踏まえ、平成27年5月に策定した「道後温泉活性化計画」及び「魅力向上、賑わい創りの総合的な対策」などに基づき、道後温泉地区の活性化を図る取り組みを行う。					
背景(どのような経緯で開始したか)	道後温泉本館の保存修理工事期間中に予想される観光客等の減少の軽減を図るため、「道後温泉本館工事計画の基本方針」及び「道後温泉活性化計画」や「総合的な対策」に基づき事業を実施し、経済的影響を最小限とすべく検討を行う必要がある。					
対象・事業内容(誰に対して、何をやるのか)	平成24年度から松山市道後温泉活性化計画審議会を設置し、平成27年5月に「道後温泉活性化計画」及び「魅力向上・賑わい創りの総合的な対策」を、平成28年10月には「道後温泉本館工事計画の基本方針」を策定し、本館保存修理工事による経済的影響緩和に向けた取り組みを行う。本館の後期工事中、来街者が安心してまち歩きができるよう歩行者空間の確保や案内表示などの整備を行う。					
受益者負担の状況	負担の有無	3:負担する性質でない		「有り」の場合,基準や金額等 「無し」の場合,その理由		
始期・終期(年度)	平成 28	～	令和 3	終期の種別	1:事業の終了時期	

2. 事業実施に係る資源の投入量【Do】

予算科目	会計	一般会計	款	商工費		目	商工振興費	R3 予算措置時期	当初
				項	目				
				R2年度		R3年度		R4年度	
現計予算額(A)(単位:千円)							4,500		0
決算額(B)(単位:千円)							4,200		
内訳(単位:千円) ※R2→R3 決算内訳, R4→予算内訳			国支出金				0		0
			県支出金				0		0
			市債				0		0
			その他				0		0
			一般財源				0	4,200	
主な経費(単位:千円) ※R3→決算,R4→予算							道後温泉本館周辺修景化に伴う情報発信看板設置・移設ほか工事代金外 4,200千円		予算計上なし
特記事項(単位:千円) ※繰越,補正,流用,事業統合等									
予算執行残額(単位:千円)			(A)-(B)				300		

※決算額(内訳含む。)は四捨五入のため、実際の額とは異なる場合があります。

S.....

3. 前年度(R3年度)の事業検証・改善【Check・Action】

主な取り組み内容	後期工事期間中の来街者の歩行空間の確保や安全対策として、車道部分では、横断歩道の復元と路面標示の整備、歩道部分では、本館や、周辺へ安全に誘導するための歩行者案内表示、点字ブロックの整備を行った。					
主な取り組み内容の達成度	→	↑:年度当初目標以上 →:年度当初目標どおり ↓:年度当初目標以下	左記の理由として良かった点,悪かった点など	歩行者空間の確保や案内表示の整備を行うことで、地元利用客等を含む来街者の快適性・利便性・満足度向上を図ることができた。		
施策への貢献度(目的の達成度を含む)	1:貢献している	左記の理由	観光施設の周辺を整備することにより、観光振興に寄与している。			
事業の公共性	必要性	2	1:日常生活に不可欠(必需) 2:日常生活に不可欠ではない(選択) 3:どちらにも該当しない	公益性	1	1:より多くの市民に提供(共同型) 2:特定の個人・団体等に提供(個人型) 3:どちらにも該当しない
R3年度終了までに把握している環境の変化,障害,課題となっている事項	松山市の主要観光施設である道後温泉本館の保存修理工事の影響緩和策に継続的に取り組む必要がある。		環境変化,障害,課題等解決のため,R4年度で取り組む改善策		なし	
R4年度の目標	なし		R4年度の主な取り組み内容(予定含む)		なし	

【活動指標】とは…事業の具体的な活動量(アウトプット/「市」が何をしたか)
 【成果指標】とは…事業実施により得られる成果(アウトカム/活動の結果、「市民等」がどうなったか)

<業績の分析>

目標達成度	指標名	単位	区分	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	最終目標		
活動指標 (3つまで設定可)	道後賑わいまちづくり進捗率	%	目標値	90	0	100	0	0	目標値	100	
			実績値	90	0	100			達成年度	R3年度	
		%	達成度	100	0	100					
	指標の種類	3.累計での増加を目指す指標				最終目標値の設定の考え方		令和3年度の事業完了の計画である。			
	本指標の設定理由	当事業の進捗率を示す指標である。									
				目標値						目標値	
				実績値						達成年度	
		%	達成度								
	指標の種類					最終目標値の設定の考え方					
	本指標の設定理由										
				目標値						目標値	
				実績値						達成年度	
%		達成度									
指標の種類					最終目標値の設定の考え方						
本指標の設定理由											
成果指標 (3つまで設定可)	松山市内の宿泊者数	人	目標値	2,600,000	2,600,000	2,600,000	2,600,000	2,600,000	目標値	#####	
			実績値	2,624,700	1,590,600	1,430,200			達成年度	R3年度	
		%	達成度	101	61	55					
	指標の種類	5.現状維持を目指す指標(増を良しとする)				最終目標値の設定の考え方		事業取組前を下回らないことを目標とする。			
	本指標の設定理由	当事業による、本市への観光客数の増加を示す指標である。									
	道後地区の宿泊者数	人	目標値	800,000	800,000	800,000	800,000	800,000	目標値	800,000	
			実績値	762,605	502,550	375,683			達成年度	R3年度	
		%	達成度	95	63	47					
	指標の種類	5.現状維持を目指す指標(増を良しとする)				最終目標値の設定の考え方		事業取組前を下回らないことを目標とする。			
	本指標の設定理由	当事業による、道後地区への観光客数の増加を示す指標である。									
				目標値						目標値	
				実績値						達成年度	
%		達成度									
指標の種類					最終目標値の設定の考え方						
本指標の設定理由											
上記指標の実績に対する評価(達成又は未達成要因の分析)	活動指標	来街者の歩行空間の確保や安全対策として、車道部分では、横断歩道の復元と路面標示の整備、歩道部分では、本館や、周辺へ安全に誘導するための歩行者用案内表示と点字ブロックの整備を行った。									
	成果指標	新型コロナウイルス感染拡大の影響もあり松山市内や道後温泉地区の宿泊者数の増加にはつながらなかった。									
上記の指標以外に指標では表すことができない定性的な成果がある場合、その内容											

令和4年度	部局等名	産業経済部	課等名	道後温泉事務所	担当グループ名	施設管理	連絡先	921-5141		
	部等長名	宇野 哲朗	課等長名	兵藤 一馬	リーダー名	主幹	担当者名	副主幹	寺井 修二	
令和3年度	部局等名	産業経済部	課等名	道後温泉事務所	担当グループ名	施設管理	連絡先	921-5141		
	部等長名	家串 正治	課等長名	山内 充	リーダー名	副主幹	担当者名	主査	寺井 修二	

1. 事業概要【Plan】 ※令和3年度の内容

事務事業名(施策コード)	32213	新型コロナ対策事業(道後温泉活性化対策)				事業性質	1-1:自治事務(実施規定なし)	事業区分	4:工事(工事に伴う設計委託含む)
基本目標	地域の魅力・活力があふれるまち【産業・交流】					笑顔プログラム	個別プログラム	-	
政策	都市全体の価値や魅力を向上する						重点プロジェクト	-	
施策	観光産業の振興						主な取り組み	-	
主な取り組み	観光都市としての魅力向上					市長公約			
取り組みの柱	アートイベントや「営業しながらの工事」を最大限に生かした取り組みなどにより、道後温泉本館の保存修理工事期間中の観光誘客を図るとともに、「道後温泉別館 飛鳥力湯泉」を活用し、日本最古といわれる道後温泉の歴史と新たな温泉文化を発信するなど、道後温泉地域の活性化を図ります。								
総合戦略	基本目標	-				取組み			
	政策	-							
	施策	-							
総合計画の実施計画掲載有無(R3)		2:無し	重点的取組事業該当有無(R3)		2:無し				
根拠法令,条例,個別計画等									
事業の目的(どのような状態にするか)	マイクロツーリズムによるマイカー利用増などに対応するため、歩行者の安全確保に向けた狹隘道路への車両進入対策、道後温泉周辺の回遊ルートの景観整備を行い、滞在時間の延長と消費喚起による道後温泉地域の活性化につなげていく。								
背景(どのような経緯で開始したか)	新型コロナウイルス感染症の影響により、自家用車での旅行が多くなると予想されるので、市道のカラー舗装や石貼りなどで歩行空間の安全対策を行うとともに景観整備をとおして観光ルートを見える化することで回遊性の向上につなげる。								
対象・事業内容(誰に対して、何をするか)	道後温泉地区の歩行者の安全対策を目的に市道のカラー舗装や石張りなどの景観整備を通して観光ルートの見える化、坂下広場の景観整備を行う。								
受益者負担の状況	負担の有無	3:負担する性質でない		「有り」の場合,基準や金額等 「無し」の場合,その理由					
始期・終期(年度)	令和	2	～	令和	3	終期の種別	1:事業の終了時期		

2. 事業実施に係る資源の投入量【Do】

予算科目	会計	一般会計		款	商工費	項	商工費	目	商工振興費	R3予算措置時期	繰越
					R2年度		R3年度		R4年度		
現計予算額(A)(単位:千円)					110,078		102,239		0		
決算額(B)(単位:千円)					7,838		97,839				
内訳(単位:千円) ※R2→R3 決算内訳, R4→予算内訳	国支出金		0		0		0		0		
	県支出金		0		0		0		0		
	市債		0		0		0		0		
	その他		0		0		0		0		
一般財源		7,838		97,839		0		0			
主な経費(単位:千円) ※R3→決算,R4→予算					市道41号線、43号線、71号線舗装整備工事、坂下広場整備工事外 97,838千円		予算計上なし				
特記事項(単位:千円) ※繰越,補正,流用,事業統合等					前年度繰越分 102,239千円						
予算執行残額(単位:千円)					(A)-(B)		102,240		4,400		

※決算額(内訳含む。)は四捨五入のため、実際の額とは異なる場合あり。

3. 前年度(R3年度)の事業検証・改善【Check・Action】

主な取り組み内容	市道41号線、43号線、71号線景観整備工事、坂下広場整備工事									
主な取り組み内容の達成度	→	↑:年度当初目標以上 →:年度当初目標どおり ↓:年度当初目標以下		左記の理由として良かった点,悪かった点など			地元関係者との協議を進めながら、事業の実施が完了した。特に、市道71号線の石貼り舗装は、工事完了後も、地元が主体で行燈を並べるなど、地元の活性化につながっている。			
施策への貢献度(目的の達成度を含む)	1:貢献している		左記の理由		道後温泉周辺の回遊ルートの景観整備は、滞在時間の延長と消費喚起による道後温泉地域の活性化につながる					
事業の公共性	必要性	3	1:日常生活に不可欠(必需) 2:日常生活に不可欠ではない(選択) 3:どちらにも該当しない			公益性	1	1:より多くの市民に提供(共同型) 2:特定の個人・団体等に提供(個人型) 3:どちらにも該当しない		
R3年度終了までに把握している環境の変化,障害課題となっている事項	特になし					環境変化,障害,課題等解決のため,R4年度で取り組む改善策		特になし		
R4年度の目標						R4年度の主な取り組み内容(予定含む)				

令和4年度	部局等名	産業経済部	課等名	道後温泉事務所	担当グループ名	道後温泉経営担当	連絡先	921-5141			
	部等長名	宇野 哲朗	課等長名	山内 充	リーダー名	主幹	岡平 都茂	担当者名	主事	鈴木 拓人	
令和3年度	部局等名	産業経済部	課等名	道後温泉事務所	担当グループ名	道後温泉経営担当	連絡先	921-5141			
	部等長名	家串 正治	課等長名	山内 充	リーダー名	副主幹	白川 剛士	担当者名	主任	西森 一博	

1. 事業概要【Plan】 ※令和3年度の内容

事務事業名(施策コード)	32213	道後温泉地域振興事業補助事業	事業性質	1-1:自治事務(実施規定なし)	事業区分	5:補助金・負担金
基本目標	地域の魅力・活力があふれるまち【産業・交流】		笑顔プログラム	個別プログラム	-	
政策	都市全体の価値や魅力を向上する			重点プロジェクト	-	
施策	観光産業の振興			主な取り組み	-	
主な取り組み	観光都市としての魅力向上		市長公約	-		
取り組みの柱	アートイベントや「営業しなからの工事」を最大限に生かした取り組みなどにより、道後温泉本館の保存修理工事期間中の観光誘客を図るとともに、「道後温泉別館 飛鳥力湯泉」を活用し、日本最古といわれる道後温泉の歴史と新たな温泉文化を発信するなど、道後温泉地域の活性化を図ります。			-		
総合戦略	基本目標	-				
	政策	-				
	施策	-				
総合計画の実施計画掲載有無(R3)	2:無し	重点的取組事業該当有無(R3)	2:無し			

根拠法令,条例,個別計画等 松山市補助金等交付規則,道後温泉地域振興事業補助金交付要綱

事業の目的(どのような状態にするか)	道後温泉地域振興事業にかかる初子祭に対して、補助金を支出し、道後温泉及び道後地区の発展と活性化を図るとともに、市民や観光客に憩いの場を提供することを目的とする。					
背景(どのような経緯で開始したか)	道後を代表する伝統行事である初子祭を保存・伝承していくとともに、道後温泉の活性化を図るために補助を開始した。					
対象・事業内容(誰に対して、何をするか)	道後温泉地域振興会に対して、補助を行う。なお、令和3年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、当地域振興会が事業を中止した。					
受益者負担の状況	負担の有無	1:有り	「有り」の場合、基準や金額等「無し」の場合、その理由	協賛金、売上金等(ただし、令和3年は事業実施なし)		
始期・終期(年度)	昭和	41	～	令和	4	終期の種別
						2:事業の継続・終了の検討時期

2. 事業実施に係る資源の投入量【Do】

予算科目	会計	道後温泉事業特別会計	款	温泉事業費	項	温泉事業費	目	総務管理費	R3予算措置時期	当初	3月補正
				R2年度			R3年度			R4年度	
現計予算額(A)(単位:千円)				450			0			450	
決算額(B)(単位:千円)				0			0			0	
内訳(単位:千円) ※R2→R3 決算内訳, R4→予算内訳	国支出金			0			0			0	
	県支出金			0			0			0	
	市債			0			0			0	
	その他			0			0			450	
	一般財源			0			0			0	
主な経費(単位:千円) ※R3→決算,R4→予算				-			新型コロナウイルス感染症の影響により執行無し			補助金450千円	
特記事項(単位:千円) ※繰越,補正,流用,事業統合等				-			当初で450千円計上、3月補正で450千円減額。			-	
予算執行残額(単位:千円)				(A)-(B)			450			0	

※決算額(内訳含む。)は四捨五入のため、実際の額とは異なる場合あり。

3. 前年度(R3年度)の事業検証・改善【Check・Action】

主な取り組み内容	令和3年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、道後温泉地域振興会が事業を中止したため、補助金の支出はない。					
主な取り組み内容の達成度	↓	↑:年度当初目標以上 →:年度当初目標どおり ↓:年度当初目標以下	左記の理由として良かった点,悪かった点など	主催者が新型コロナウイルス感染症の影響により事業を中止した		
施策への貢献度(目的の達成度を含む)	1:貢献している	左記の理由	道後を代表する伝統行事である初子祭の保存・伝承や、道後温泉の活性化に貢献している			
事業の公共性	必要性	2	1:日常生活に不可欠(必需) 2:日常生活に不可欠ではない(選択) 3:どちらにも該当しない	公益性	2	1:より多くの市民に提供(共同型) 2:特定の個人・団体等に提供(個人型) 3:どちらにも該当しない
R3年度終了までに把握している環境の変化,障害,課題となっている事項	特になし			環境変化,障害,課題等解決のため,R4年度で取り組む改善策		
R4年度の目標	道後温泉地域の年頭を祝う祭りを盛り上げ、道後温泉地域と松山市の発展に寄与する。また、道後温泉と非常に縁が深く、江戸時代から続く伝統行事を保存、継承していく。			R4年度の主な取り組み内容(予定含む)		道後温泉地域振興事業補助金の交付

令和4年度	部局等名	産業経済部	課等名	道後温泉事務所	担当グループ名	道後温泉経営担当	連絡先	921-5141			
	部等長名	宇野 哲朗	課等長名	山内 充	リダー名	主幹	岡平 都茂	担当者名	主事	鈴木 拓人	
令和3年度	部局等名	産業経済部	課等名	道後温泉事務所	担当グループ名	道後温泉経営担当	連絡先	921-5141			
	部等長名	家串 正治	課等長名	山内 充	リダー名	副主幹	白川 剛士	担当者名	主任	西森 一博	

1. 事業概要【Plan】 ※令和3年度の内容

事務事業名(施策コード)	32213	道後村まつり事業補助事業	事業性質	1-1:自治事務(実施規定なし)	事業区分	5:補助金・負担金
基本目標	地域の魅力・活力があふれるまち【産業・交流】		笑顔プログラム	個別プログラム	-	
政策	都市全体の価値や魅力を向上する			重点プロジェクト	-	
施策	観光産業の振興			主な取り組み	-	
主な取り組み	観光都市としての魅力向上		市長公約	-		
取り組みの柱	アートイベントや「営業しなからの工事」を最大限に生かした取り組みなどにより、道後温泉本館の保存修理工事期間中の観光誘客を図るとともに、「道後温泉別館 飛鳥力湯泉」を活用し、日本最古といわれる道後温泉の歴史と新たな温泉文化を発信するなど、道後温泉地域の活性化を図ります。			-		
総合戦略	基本目標	-				
	政策	-				
	施策	-				
総合計画の実施計画掲載有無(R3)		2:無し	重点的取組事業該当有無(R3)	2:無し		

根拠法令,条例,個別計画等 松山市補助金等交付規則、道後村まつり事業補助事業補助金交付要綱

事業の目的(どのような状態にするか)	歴史ある湯釜薬師祭等を開催する道後村まつり事業に対して、補助金を支出することにより、道後温泉の活性化を図ると共に、市民及び観光客に憩いの場を提供することを目的とする。					
背景(どのような経緯で開始したか)	湯釜薬師祭は、明治27年の道後温泉本館改築の際に、新しい湯釜を造ったことを機会に古い湯釜を道後公園へ移し、地域住民が湯釜薬師として祭ったことが始まりとされている。湯釜薬師祭などが開催される道後村まつりを通じて、行政と道後地域住民が一体となって活性化を図るために、補助金事業を導入した。					
対象・事業内容(誰に対して、何をするか)	道後村まつり実行委員会に対して、補助を行う。なお、令和3年度は道後村まつり実行委員会が新型コロナウイルス感染拡大防止のため、事業規模を縮小したこと等により、補助金交付申請がなく予算執行なし。					
受益者負担の状況	負担の有無	1:有り	「有り」の場合、基準や金額等「無し」の場合、その理由	負担金等		
始期・終期(年度)	昭和	41	～	令和	4	終期の種別
						2:事業の継続・終了の検討時期

2. 事業実施に係る資源の投入量【Do】

予算科目	会計	道後温泉事業特別会計	款	温泉事業費	項	温泉事業費	目	総務管理費	R3予算措置時期	当初	3月補正
				R2年度			R3年度			R4年度	
現計予算額(A)(単位:千円)				0			0			230	
決算額(B)(単位:千円)				0			0			0	
内訳(単位:千円) ※R2→R3 決算内訳、 R4→予算内訳	国支出金			0			0			0	
	県支出金			0			0			0	
	市債			0			0			0	
	その他			0			0			230	
	一般財源			0			0			0	
主な経費(単位:千円) ※R3→決算,R4→予算				-			新型コロナウイルス感染拡大防止のため当該事業の開催規模が縮小され、実行委員会からの補助申請がなく執行なし			補助金230千円	
特記事項(単位:千円) ※繰越,補正,流用,事業統合等				-			当初で230千円計上、3月補正で230千円減額。			-	
予算執行残額(単位:千円)				(A)-(B)			0			0	

※決算額(内訳含む。)は四捨五入のため、実際の額とは異なる場合あり。

3. 前年度(R3年度)の事業検証・改善【Check・Action】

主な取り組み内容	令和3年度は道後村まつり実行委員会が新型コロナウイルス感染拡大防止のため、事業規模を縮小し、補助金交付申請がなかったことから、補助金の支出はない。					
主な取り組み内容の達成度	↓	↑:年度当初目標以上 →:年度当初目標どおり ↓:年度当初目標以下	左記の理由として良かった点,悪かった点など	主催者が新型コロナウイルス感染症の影響により事業を縮小した		
施策への貢献度(目的の達成度を含む)	4:どちらもない		左記の理由	新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止のため。		
事業の公共性	必要性	2	1:日常生活に不可欠(必需) 2:日常生活に不可欠ではない(選択) 3:どちらにも該当しない	公益性	2	1:より多くの市民に提供(共同型) 2:特定の個人・団体等に提供(個人型) 3:どちらにも該当しない
R3年度終了までに把握している環境の変化,障害,課題となっている事項	特になし		環境変化,障害,課題等解決のため,R4年度で取り組む改善策		特になし	
R4年度の目標	官民一体となって松山の夏の風物詩である道後村まつりを盛り上げ、道後温泉地域と松山市の発展に寄与する。また、道後温泉と非常に縁が深く、明治時代から続く伝統行事を保存、継承していく。		R4年度の主な取り組み内容(予定含む)		道後村まつりの補助金の交付	

令和4年度	部局等名	産業経済部	課等名	道後温泉事務所	担当グループ名	道後温泉経営担当	連絡先	921-5141				
	部等長名	宇野 哲朗	課等長名	山内 充	リーダー名	主幹	岡平 都茂	担当者名	主査	三神 正裕	主任	井上 亜紀子
令和3年度	部局等名	産業経済部	課等名	道後温泉事務所	担当グループ名	道後温泉経営担当	連絡先	921-5141				
	部等長名	家串 正治	課等長名	山内 充	リーダー名	副主幹	白川 剛士	担当者名	主任	井上 亜紀子		

1. 事業概要【Plan】 ※令和3年度の内容

事務事業名(施策コード)	32221	浴場管理事業	事業性質	1-1:自治事務(実施規定なし)	事業区分	2:委託
基本目標	地域の魅力・活力があふれるまち【産業・交流】		笑顔プログラム	個別プログラム	-	
政策	都市全体の価値や魅力を向上する			重点プロジェクト	-	
施策	観光産業の振興			主な取り組み	-	
主な取り組み	受入体制の整備		市長公約	-		
取り組みの柱	観光客の誰もが快適に楽しむことができるよう、観光拠点施設の維持管理や魅力的な観光ルートの開発など、おもてなしの場の充実を図ります。			-		
総合戦略	基本目標	-		取組み	-	
	政策	-			-	
	施策	-			-	
総合計画の実施計画掲載有無(R3)	2:無し	重点的取組事業該当有無(R3)	2:無し			
根拠法令,条例,個別計画等	松山市道後温泉事業施設の設置及び管理に関する条例					
事業の目的(どのような状態にするか)	道後温泉本館の効率的な運営を図るとともに、本館保存修理工事による営業形態の変更等に対応し、また、来館者が気持ち良く施設を利用できる環境を整える。					
背景(どのような経緯で開始したか)	道後温泉本館など公営公衆浴場を財産区から松山市に編入し、運営している。					
対象・事業内容(誰に対して、何をやるのか)	道後温泉本館の利用者に対し、入浴などのサービスを提供する。効率的な運営を図るため、道後温泉本館の運営を業務委託している。また、飛鳥乃湯泉の運営は、檜の湯の運営と合わせて指定管理者制度を導入している。浴用物品、チケットの印刷等、施設利用者にサービスを提供するための物を発注。道後温泉本館はキャリアサポート株式会社へ委託料を支出、飛鳥乃湯泉と檜の湯は道後温泉コンソーシアムに指定管理料を支出。					
受益者負担の状況	負担の有無	1:有り	「有り」の場合 基準や金額等 「無し」の場合、その理由	松山市道後温泉事業施設の設置及び管理に関する条例に基づき、施設利用の際は入浴料金を徴収。道後温泉本館大人420円～		
始期・終期(年度)	~ 令和 4		終期の種別	2:事業の継続・終了の検討時期		

2. 事業実施に係る資源の投入量【Do】

予算科目	会計	道後温泉特別会計	款	温泉事業費	項	温泉事業費	目	浴場管理費	R3予算措置時期	当初	3月補正
				R2年度			R3年度			R4年度	
現計予算額(A)(単位:千円)				399,085			419,220			543,903	
決算額(B)(単位:千円)				342,604			381,713				
内訳(単位:千円) ※R2→R3 決算内訳, R4→予算内訳	国支出金		0		0		0		0		0
	県支出金		0		0		0		0		0
	市債		0		0		0		0		0
	その他		342,604		381,713		543,903		543,903		543,903
	一般財源		0		0		0		0		0
主な経費(単位:千円) ※R3→決算 R4→予算				道後温泉別館等指定管理料 260,440千円 本館管理業務委託 65,019千円 本館清掃業務委託 8,976千円			道後温泉別館等指定管理料 286,100千円 本館管理業務委託 131,000千円 本館清掃業務委託 12,159千円				
特記事項(単位:千円) ※繰越,補正,流用,事業統合等				当初予算で475,042千円計上 3月補正予算で、55,822千円減額							
予算執行残額(単位:千円)				(A)-(B) 56,481			37,507				

※決算額(内訳含む。)は四捨五入のため、実際の額とは異なる場合があります。

3. 前年度(R3年度)の事業検証・改善【Check・Action】

主な取り組み内容	通常の応接業務、施設の保全を引き続き行い、お客様へのおもてなしを継続的に進めた。また、平成31年1月15日より本館保存修理工事に着手し、休憩室等を休業し入浴のみの営業に変更した。令和3年度は、後期工事に移行し、営業エリアを神の湯から霊の湯に変更した。					
主な取り組み内容の達成度	→	↑:年度当初目標以上 →:年度当初目標どおり ↓:年度当初目標以下	左記の理由として良かった点,悪かった点など	新型コロナウイルス感染拡大防止対策を行いながら、来館者の満足度の向上に努めている。		
施策への貢献度(目的の達成度を含む)	1:貢献している	左記の理由	新型コロナウイルス感染拡大防止の対策を行い来館者の満足度向上に貢献した。			
事業の公共性	必要性	2	1:日常生活に不可欠(必需) 2:日常生活に不可欠ではない(選択) 3:どちらにも該当しない	公益性	1	1:より多くの市民に提供(共同型) 2:特定の個人・団体等に提供(個人型) 3:どちらにも該当しない
R3年度終了までに把握している環境の変化,障害,課題となっている事項	R3年度に後期工事に移行し、営業エリアを神の湯から霊の湯に変更している。		環境変化,障害,課題等解決のため,R4年度で取り組み改善策	本館の利用浴室が霊の湯に移行したことによる定員減少を飛鳥乃湯泉や檜の湯の利用増に繋げるよう、SNSやホームページで丁寧に案内していく。		
R4年度の目標	来館者に道後温泉市有3館を安心・安全・快適に利用していただくために、効率的な運営や新型コロナウイルス感染拡大防止策を継続していく。		R4年度の主な取り組み内容(予定含む)	道後温泉市有3館の効率的な運営に取り組む浴場に必要物品等の調達、清掃や施設の営繕工事などを行う		

令和4年度	部局等名	産業経済部	課等名	道後温泉事務所	担当グループ名	道後温泉経営担当	連絡先	921-5141		
	部等長名	宇野 哲朗	課等長名	山内 充	リーダー名	主幹	岡平 都茂	担当者名	主事	越智 みなみ
令和3年度	部局等名	産業経済部	課等名	道後温泉事務所	担当グループ名	道後温泉経営担当	連絡先	921-5141		
	部等長名	家串 正治	課等長名	山内 充	リーダー名	副主幹	白川 剛士	担当者名	主事	越智 みなみ

1. 事業概要【Plan】 ※令和3年度の内容

事務事業名(施策コード)	32221	物品販売事業	事業性質	1-1:自治事務(実施規定なし)	事業区分	1:直営
基本目標	地域の魅力・活力があふれるまち【産業・交流】		笑顔プログラム	個別プログラム	-	
政策	都市全体の価値や魅力を向上する			重点プロジェクト	-	
施策	観光産業の振興			主な取り組み	-	
主な取り組み	受入体制の整備		市長公約	-		
取り組みの柱	観光客の誰もが快適に楽しむことができるよう、観光拠点施設の維持管理や魅力的な観光ルートの開発など、おもてなしの場の充実を図ります。			-		
総合戦略	基本目標	-		取組み	-	
	政策	-			-	
	施策	-			-	
総合計画の実施計画掲載有無(R3)	2:無し	重点的取組事業該当有無(R3)	2:無し			
根拠法令,条例,個別計画等						
事業の目的(どのような状態にするか)	道後温泉本館の入浴客に対するサービスとして、タオルや石鹸等の入浴用品を販売し、満足度向上を図るとともに収益を上げることを目的とする。					
背景(どのような経緯で開始したか)	入浴客のニーズに対応したサービス提供及び入浴記念としての商品販売を開始した。					
対象・事業内容(誰に対して、何をやるのか)	入浴客向けに売店商品を販売するために、売店商品の仕入れを行う。					
受益者負担の状況	負担の有無	1:有り	「有り」の場合,基準や金額等「無し」の場合,その理由	商品代金		
始期・終期(年度)	~ 令和 4		終期の種別	2:事業の継続・終了の検討時期		

2. 事業実施に係る資源の投入量【Do】

予算科目	会計	道後温泉事務所会計	款	温泉事業費	項	温泉事業費	目	浴場管理費	R3予算措置時期	当初
				R2年度		R3年度		R4年度		
現計予算額(A)(単位:千円)				10,910		4,880		6,960		
決算額(B)(単位:千円)				4,339		4,321				
内訳(単位:千円) ※R2→R3 決算内訳, R4→予算内訳	国支出金			0		0		0		
	県支出金			0		0		0		
	市債			0		0		0		
	その他			4,339		4,321		6,960		
	一般財源			0		0		0		
主な経費(単位:千円) ※R3→決算,R4→予算						消耗品費 4,321千円		消耗品費 6,660千円 印刷製本費 300千円		
特記事項(単位:千円) ※繰越,補正,流用,事業統合等						当初予算で7,480千円計上 3月補正予算で、2,600千円減額				
予算執行残額(単位:千円)				(A)-(B)		6,571		559		

※決算額(内訳含む。)は四捨五入のため、実際の額とは異なる場合あり。

3. 前年度(R3年度)の事業検証・改善【Check・Action】

主な取り組み内容	タオル、石鹸等の入浴用品を仕入れ、販売する。					
主な取り組み内容の達成度	→	↑:年度当初目標以上 →:年度当初目標どおり ↓:年度当初目標以下	左記の理由として良かった点,悪かった点など	本館保存修理工事により販売スペースを減らしたほか、新型コロナウイルス感染拡大防止のために入場制限を行ったなかでも、商品販売を継続することで、入浴客の満足度向上につなげた。		
施策への貢献度(目的の達成度を含む)	1:貢献している	左記の理由		タオルや石鹸等のオリジナルグッズを販売することにより、入浴客の満足度向上に貢献しているため		
事業の公共性	必要性	2	1:日常生活に不可欠(必需) 2:日常生活に不可欠ではない(選択) 3:どちらにも該当しない	公益性	2	1:より多くの市民に提供(共同型) 2:特定の個人・団体等に提供(個人型) 3:どちらにも該当しない
R3年度終了までに把握している環境の変化,障害,課題となっている事項	道後温泉本館保存修理工事に伴い、売店商品を販売できるスペースが減少している。		環境変化,障害,課題等解決のため,R4年度で取り組み改善策		保存修理工事期間中の限られたスペースや商品の中でも、入浴客の満足度を向上させるために、引き続き、オリジナルグッズを販売していくほか、入浴客のニーズに合った商品の販売を検討していく。	
R4年度の目標	引き続きオリジナルグッズ等の販売により、入浴客の満足度の向上に努める。		R4年度の主な取り組み内容(予定含む)		入浴客の満足度向上を図るために、物品販売を行うために仕入れ等を行う。	

令和4年度	部局等名	産業経済部	課等名	道後温泉事務所	担当グループ名	施設管理	連絡先	921-5151		
	部等長名	宇野 哲朗	課等長名	山内 充	リダー名	主幹	担当者名	副主幹	寺井 修二	
令和3年度	部局等名	産業経済部	課等名	道後温泉事務所	担当グループ名	施設管理	連絡先	921-5151		
	部等長名	家串 正治	課等長名	山内 充	リダー名	副主幹	担当者名	主査	寺井 修二	技師 野本 健

1. 事業概要【Plan】 ※令和3年度の内容

事務事業名(施設コード)	32221	源泉管理事業	事業性質	1-1:自治事務(実施規定なし)	事業区分	4:工事(工事に伴う設計委託含む)
基本目標	地域の魅力・活力があふれるまち【産業・交流】		笑顔プログラム	個別プログラム	-	
政策	都市全体の価値や魅力を向上する			重点プロジェクト	-	
施策	観光産業の振興			主な取り組み	-	
主な取り組み	受入体制の整備		市長公約	-		
取り組みの柱	観光客の誰もが快適に楽しむことができるよう、観光拠点施設の維持管理及び魅力的な観光ルートの開発など、おもてなしの場の充実に努めます。			-		
総合戦略	基本目標	-				
	政策	-				
	施策	-				
総合計画の実施計画掲載有無(R3)	2:無し	重点的取組事業該当有無(R3)	2:無し			
根拠法令,条例,個別計画等						
事業の目的(どのような状態にするか)	道後温泉にいられた市民や観光客の方々に心地よく利用していただくため、源泉の安定供給が出来るよう源泉設備を整備する。					
背景(どのような経緯で開始したか)	道後温泉及び源泉、分湯場等施設の整備による。					
対象・事業内容(誰に対して、何をやるのか)	既存源泉18カ所及び既設分湯場の4カ所を対象として、安定的な源泉管理及び維持管理を図る。 道後温泉第2分湯場上り湯ポンプ修繕工事の工事請負費を支出 そのほか源泉管理に必要な修繕に工事請負費を支出					
受益者負担の状況	負担の有無	3:負担する性質でない	「有り」の場合,基準や金額等 「無し」の場合,その理由			
始期・終期(年度)	昭和 41	～	令和 4	終期の種別	2:事業の継続・終了の検討時期	

2. 事業実施に係る資源の投入量【Do】

予算科目	会計	道後温泉事業特別会計	款	温泉事業費	項	温泉事業費	目	施設整備費	R3予算措置時期	当初
				R2年度			R3年度			R4年度
現計予算額(A)(単位:千円)				35,875			36,204			36,760
決算額(B)(単位:千円)				34,622			33,998			
内訳(単位:千円) ※R2→R3 決算内訳, R4→予算内訳	国支出金			0			0			0
	県支出金			0			0			0
	市債			0			0			0
	その他			34,622			33,998			36,760
	一般財源			0			0			0
主な経費(単位:千円) ※R3→決算,R4→予算				光熱費 13,326千円 委託費 8,508千円 工事請負費 10,700千円			光熱費 15,124千円 委託費 9,174千円 工事請負費 10,700千円			
特記事項(単位:千円) ※繰越,補正,流用,事業統合等										
予算執行残額(単位:千円)				(A)-(B)			1,253			2,206

※決算額(内訳含む。)は四捨五入のため、実際の額とは異なる場合があります。

3. 前年度(R3年度)の事業検証・改善【Check・Action】

主な取り組み内容	道後温泉の18カ所の源泉の維持管理。 第4分湯場の手湯の改修工事、源泉汲上用エア管取替工事など					
主な取り組み内容の達成度	→	↑:年度当初目標以上 →:年度当初目標どおり ↓:年度当初目標以下	左記の理由として良かった点,悪かった点など	コロナ禍でありながら、旅館ホテルの需要に変動がある中でも、計画的に源泉管理を実施出来た。		
施策への貢献度(目的の達成度を含む)	1:貢献している	左記の理由	道後地区の旅館ホテルへの安定的な源泉の供給につながっている。			
事業の公共性	必要性	2	1:日常生活に不可欠(必需) 2:日常生活に不可欠ではない(選択) 3:どちらにも該当しない	公益性	1	1:より多くの市民に提供(共同型) 2:特定の個人・団体等に提供(個人型) 3:どちらにも該当しない
R3年度終了までに把握している環境の変化,障害,課題となっている事項	老朽化している源泉の延命化と、道後温泉本館保存修理工事やコロナの影響により、長期や短期の休館する旅館ホテルが増加し、内湯の需要量が変動しているため、間欠運転している源泉の調整が必要である。			環境変化,障害,課題等解決のため,R4年度で取り組む改善策	道後温泉本館保存修理工事も後期工事に移行し、完成に向けた源泉運用と内湯の必要湯量の変化への対応が必要である。	
R4年度の目標	本館保存修理工事が後期工事に移行し、工事完了を見据えながら、源泉の延命化と必要湯量の調整と確保に努めていく。			R4年度の主な取り組み内容(予定含む)	内湯へ安定的に源泉を供給するために18カ所ある源泉の延命化と維持管理及び突発的な修繕に対応する。	

令和4年度	部局等名	産業経済部	課等名	道後温泉事務所	担当グループ名	施設管理	連絡先	921-5151		
	部等長名	宇野 哲朗	課等長名	山内 充	リダー名	主幹	担当者名	副主幹	寺井 修二	
令和3年度	部局等名	産業経済部	課等名	道後温泉事務所	担当グループ名	施設管理	連絡先	921-5151		
	部等長名	家串 正治	課等長名	山内 充	リダー名	副主幹	担当者名	主査	寺井 修二	技師 野本 健

1. 事業概要【Plan】 ※令和3年度の内容

事務事業名(実施コード)	32221	源泉井戸及び分湯場施設改修事業	事業性質	1-1:自治事務(実施規定なし)	事業区分	4:工事(工事に伴う設計委託含む)
基本目標	地域の魅力・活力があふれるまち【産業・交流】		笑顔プログラム	個別プログラム	-	
政策	都市全体の価値や魅力を向上する			重点プロジェクト	-	
施策	観光産業の振興			主な取り組み	-	
主な取り組み	受入体制の整備		市長公約	-		
取り組みの柱	観光客の誰もが快適に楽しむことができるよう、観光拠点施設の維持管理や魅力的な観光ルートの開発など、おもてなしの場の充実を図ります。			-		
総合戦略	基本目標	-				
	政策	-				
	施策	-				
総合計画の実施計画掲載有無(R3)	2:無し	重点的取組事業該当有無(R3)	2:無し			
根拠法令,条例,個別計画等						
事業の目的(どのような状態にするか)	老朽化している源泉井戸及び分湯場を順次改修することにより、温泉の湯量を確保することを目的とする。					
背景(どのような経緯で開始したか)	平成20年度に「道後温泉源泉井戸及び配湯施設改良基本計画」10カ年分を策定、令和2年度に、「道後温泉源泉井戸及び配湯施設等の改修実施計画」12カ年分を策定し、老朽化した源泉や分湯場等の改修を計画的にすすめている。					
対象・事業内容(誰に対して、何をやるのか)	既存源泉18カ所及び既設分湯場の4カ所を対象として、安定的な源泉管理及び維持管理を図る。日機愛媛株に対して、道後温泉26号源泉汲上げ用コンプレッサー更新工事の工事請負費を支出。そのほか源泉管理に必要な修繕に工事請負費を支出					
受益者負担の状況	負担の有無	3:負担する性質でない	「有り」の場合、基準や金額等「無し」の場合、その理由			
始期・終期(年度)	昭和 21	～	令和 13	終期の種別	1:事業の終了時期	

2. 事業実施に係る資源の投入量【Do】

予算科目	会計	道後温泉事業特別会計	款	温泉事業費		目	源泉管理事業	R3予算措置時期	当初	繰越
				項	温泉事業費					
				R2年度	R3年度	R4年度				
現計予算額(A)(単位:千円)					25,230		23,137			8,500
決算額(B)(単位:千円)					8,778		22,882			
内訳(単位:千円) ※R2→R3 決算内訳, R4→予算内訳	国支出金				0		0			0
	県支出金				0		0			0
	市債				0		0			0
	その他				8,778		22,882			8,500
	一般財源				0		0			0
主な経費(単位:千円) ※R3→決算,R4→予算						道後温泉第24号源泉建屋改築工事(残金払)9,387千円(繰越分)	源泉井戸遠隔監視システム整備工事 1,000千円			
特記事項(単位:千円) ※繰越,補正,流用,事業統合等						現計予算額の内、9,387千円は前年度繰越分				
予算執行残額(単位:千円)				(A)-(B)	16,452		255			

※決算額(内訳含む。)は四捨五入のため、実際の額とは異なる場合あり。

3. 前年度(R3年度)の事業検証・改善【Check・Action】

主な取り組み内容	道後温泉を支えている源泉の効率的な管理をしていくための遠隔監視システムを一部取り入れた。また、道後温泉の主力源泉の一つ26号源泉の汲上げ用コンプレッサーの更新を行った。					
主な取り組み内容の達成度	→	↑:年度当初目標以上 →:年度当初目標どおり ↓:年度当初目標以下	左記の理由として良かった点,悪かった点など	予定どおりの工程管理ができ、順調に進捗している。		
施策への貢献度(目的の達成度を含む)	1:貢献している	左記の理由	工事を円滑に実施することで、観光への影響や経済的影響の緩和につなげている。			
事業の公共性	必要性	2	1:日常生活に不可欠(必需) 2:日常生活に不可欠ではない(選択) 3:どちらにも該当しない	公益性	1	1:より多くの市民に提供(共同型) 2:特定の個人・団体等に提供(個人型) 3:どちらにも該当しない
R3年度終了までに把握している環境の変化,障害,課題となっている事項	国の史跡公園の道後公園内にある第5分湯場(昭和30年代)の老朽化が進んでおり、今後廃止に向けた関係機関との調整が必要。また、主力源泉の26号源泉の源泉井戸の改修が、敷地が狭く実施が困難であるため、改修、長寿命化の検討が必要である。		環境変化,障害,課題等解決のため,R4年度で取り組む改善策	老朽化している第5分湯場の廃止に向けた温泉管のルート確保の調整や、文化庁や県と廃止に向けた調整を進めていく。		
R4年度の目標	引き続き、遠隔監視ができる源泉の整備を進めていく。本館保存修理完了後の源泉需要の増加を見越した、各源泉、分湯場の機器類の更新整備を進めていく。		R4年度の主な取り組み内容(予定含む)	令和6年度の保存修理後を見据え、引き続き、遠隔監視ができる源泉の整備を進めていく。第2分湯場の温水槽の水位計の更新。11号源泉の送湯ポンプの更新など源泉や分湯場の機器類の更新を行っていく。		

令和4年度	部局等名	産業経済部	課等名	道後温泉事務所	担当グループ名	道後温泉経営担当	連絡先	921-5141				
	部等長名	宇野 哲朗	課等長名	山内 充	リーダー名	主幹	岡平 都茂	担当者名	主査	三神 正裕	主事	越智 みなみ
令和3年度	部局等名	産業経済部	課等名	道後温泉事務所	担当グループ名	道後温泉経営担当	連絡先	921-5141				
	部等長名	家串 正治	課等長名	山内 充	リーダー名	副主幹	白川 剛士	担当者名	主事	越智 みなみ		

1. 事業概要【Plan】 ※令和3年度の内容

事務事業名(施策コード)	44121	道後温泉本館保存修理寄附推進事業				事業性質	1-1:自治事務(実施規定なし)	事業区分	1:直営			
基本目標	健全で豊かな心を育むまち【教育・文化】				笑顔プログラム	個別プログラム	-					
政策	松山市固有の文化芸術を守り育む					重点プロジェクト	-					
施策	文化遺産の継承					主な取り組み	-					
主な取り組み	道後温泉本館の保存修理				市長公約							
取り組みの柱	道後温泉本館の保存修理工事を貴重な機会と捉え、工事期間中の積極的な情報発信などにより、文化財への理解を深め、市民共有の財産である道後温泉本館を将来の世代に受け継いでいきます。											
総合戦略	基本目標	-				取組み	-					
	政策	-										
	施策	-										
総合計画の実施計画掲載有無(R3)	2:無し		重点的取組事業該当有無(R3)	2:無し								
根拠法令,条例,個別計画等												

事業の目的(どのような状態にするか)	道後温泉本館保存修理工事に要する経費について、市内外に広く寄附を募り、本市が誇る国の重要文化財を未来に遺す機運の醸成を図る。									
背景(どのような経緯で開始したか)	平成31年1月以降より、準備が整い次第着手される道後温泉本館保存修理工事に要する一般会計負担見込額の部分的な軽減を図るとともに、工事期間中に遠隔地からの誘客促進を図る必要があることから開始した。									
対象・事業内容(誰に対して、何をするか)	道後温泉本館保存に賛同していただける市内外の方を対象に寄附を募る。ふるさと納税とクラウドファンディングを活用し、市内外に広く寄附を募るとともに、返礼品として、入浴優待券や道後街歩きクーポン等を進呈することで、誘客や地域経済の活性化につなげていく。また、工事の進捗などの情報発信を行う。									
受益者負担の状況	負担の有無	1:有り		「有り」の場合,基準や金額等「無し」の場合,その理由		寄附金				
始期・終期(年度)	平成	29	～	令和	5	終期の種別	1:事業の終了時期			

2. 事業実施に係る資源の投入量【Do】

予算科目	会計	一般会計	款	商工費	項	観光費		目	観光総務費	R3予算措置時期	当初
						R2年度	R3年度				
現計予算額(A)(単位:千円)					19,239			7,427	6,247		
決算額(B)(単位:千円)					2,545			2,211	6,247		
内訳(単位:千円) ※R2→R3 決算内訳, R4→予算内訳	国支出金				0			0	0		
	県支出金				0			0	0		
	市債				0			0	0		
	その他				0			0	0		
	一般財源				2,545			2,211	6,247		
主な経費(単位:千円) ※R3→決算,R4→予算						報償費1,508千円		報償費3,864千円			
特記事項(単位:千円) ※繰越,補正,流用,事業統合等											
予算執行残額(単位:千円)		(A)-(B)		16,694		5,216					

※決算額(内訳含む。)は四捨五入のため、実際の額とは異なる場合があります。

3. 前年度(R3年度)の事業検証・改善【Check・Action】

主な取り組み内容	ふるさと納税を活用したクラウドファンディングを実施。市外寄附者に対して返礼品を進呈。 ・期間 令和3年8月1日～令和4年1月31日 ・寄附件数 262件 ・寄附額合計 5,627,884円										
主な取り組み内容の達成度	↑	↑:年度当初目標以上 →:年度当初目標どおり ↓:年度当初目標以下		左記の理由として良かった点,悪かった点など			募集期間を長く設けたほか、返礼品の魅力向上を図る等の取組みを行ったことにより目標を達成できた。				
施策への貢献度(目的の達成度を含む)	1:貢献している		左記の理由		保存修理工事にかかる財源確保に貢献している						
事業の公共性	必要性	2	1:日常生活に不可欠(必需) 2:日常生活に不可欠ではない(選択) 3:どちらにも該当しない			公益性	3	1:より多くの市民に提供(共同型) 2:特定の個人・団体等に提供(個人型) 3:どちらにも該当しない			
R3年度終了までに把握している環境の変化,障害,課題となっている事項	クラウドファンディング開始から5年が経過し、これまで多くの方に事業にご賛同いただき寄附をいただいている。新たに事業に賛同していただく方を増やしていくために、効果的な情報発信や魅力的な返礼品の検討が課題となっている。				環境変化,障害,課題等解決のため,R4年度で取り組む改善策			SNSやホームページを活用して、積極的に道後温泉本館保存修理工事の情報を発信していくほか、道後温泉旅館協同組合や道後商店街振興組合等と連携した魅力ある返礼品を検討していく。			
R4年度の目標	SNSやホームページを活用して、積極的に道後温泉本館保存修理工事の情報を発信していくほか、道後温泉旅館協同組合や道後商店街振興組合等と連携した魅力ある返礼品を検討していくことにより、事業の賛同者を増やしていく。				R4年度の主な取り組み内容(予定含む)			令和4年8月～令和5年1月の6カ月を実施期間として寄附を募る予定			

令和4年度	部局等名	産業経済部	課等名	道後温泉事務所	担当グループ名	施設管理	連絡先	921-5151		
	部等長名	宇野 哲朗	課等長名	井手 一成	リダー名	主幹	担当者名	副主幹	寺井 修二	
令和3年度	部局等名	産業経済部	課等名	道後温泉事務所	担当グループ名	施設管理	連絡先	921-5151		
	部等長名	家串 正治	課等長名	山内 充	リダー名	副主幹	担当者名	主査	寺井 修二	技師 野本 健

1. 事業概要【Plan】 ※令和3年度の内容

事務事業名(施策コード)	44121	道後温泉本館保存修理事業				事業性質	1-1:自治事務(実施規定なし)	事業区分	4:工事(工事に伴う設計委託含む)
基本目標	健全で豊かな心を育むまち【教育・文化】					笑顔プログラム	個別プログラム	-	
政策	松山市固有の文化芸術を守り育む						重点プロジェクト	-	
施策	文化遺産の継承						主な取り組み	-	
主な取り組み	道後温泉本館の保存修理					市長公約			
取り組みの柱	道後温泉本館の保存修理工事を貴重な機会と捉え、工事期間中の積極的な情報発信などにより、文化財への理解を深め、市民共有の財産である道後温泉本館を将来の世代に受け継いでいきます。								
総合戦略	4224	基本目標	④住み続けたいまちをつくる(持続可能なまちづくり)			取組み	④ 旧耐震基準(昭和56年以前)の木造住宅の耐震診断及び耐震補強工事の補助事業を実施し、安全・安心な住宅環境を促進します。		
		政策	②生活の質と都市力の向上						
		施策	②安全・安心な暮らしの推進						
総合計画の実施計画掲載有無(R3)		1:有り	重点的取組事業該当有無(R3)		1:有り				
根拠法令,条例,個別計画等									

事業の目的(どのような状態にするか)	平成31年1月15日から営業しながらの道後温泉本館保存修理工事に着手。耐震補強が完了したところから解体部分の組み立てや腐朽部分の修理工事を実施した。また、温泉設備や電気設備など各設備の更新工事も実施した。								
背景(どのような経緯で開始したか)	本市の観光シンボルである国の重要文化財「道後温泉本館」は改築から120年以上が経過し、文化財的価値を維持するため保存修理工事が必要となっている。そこで、松山市道後温泉活性化審議会を平成24年5月に設置、また工事中の経済的影響が懸念されることから、平成26年度から文化財や耐震設計に精通した学識経験者を保存修復専門委員に選任し、地盤調査や建物調査の詳細設計を実施するとともに、最新の解析技術を活用した精度の高い耐震補強設計を検討してきた。								
対象・事業内容(誰に対して、何をするのか)	平成31年1月15日から営業しながらの道後温泉本館保存修理工事に着手、総事業費約26億円、令和6年末までの工期を計画している。前期工事として又新殿・霊の湯棟、南棟東側、玄関棟内部が工事範囲だったが、令和3年7月15日より後期営業を開始した。本館への入口が、前期工事の北側から、明治32年の改築当時に利用されていた、東側の又新殿・霊の湯棟に変わり、修理が完了した「霊の湯」で入浴していただいている。令和4年度は後期工事として、事務所棟、神の湯本館棟、南棟西側、玄関棟などの解体、調査、補強工事に入っている。工事の請負業者である門屋組・成武建設・富士造型特定建設工事共同企業体に対して、道後温泉本館保存修理工事の工事請負費を支出監理委託している公益財団法人文化財建造物保存技術協会に対して、保存修理工事の監理委託料を支出								
受益者負担の状況	負担の有無	3:負担する性質でない			「有り」の場合、基準や金額等		「無し」の場合、その理由		
始期・終期(年度)	平成	25	～	令和	6	終期の種別	1:事業の終了時期		

2. 事業実施に係る資源の投入量【Do】

予算科目	会計	道後温泉事業特別会計	款	温泉事業費	項	温泉事業費	目	施設整備費	R3 予算措置時期	当初	繰越
				R2年度			R3年度			R4年度	
現計予算額(A)(単位:千円)				664,646			620,614			635,749	
決算額(B)(単位:千円)				395,256			406,981				
内訳(単位:千円) ※R2→R3 決算内訳、 R4→予算内訳	国支出金			279,229			164,222			257,999	
	県支出金			0			0			0	
	市債			85,800			58,900			100,400	
	その他			30,227			183,859			277,350	
一般財源			0			0			0		
主な経費(単位:千円) ※R3→決算,R4→予算				本館保存修理工事(残金払)174,985千円(繰越分) 本館保存修理工事 117,850千円 本館保存修理工事監理委託費 94,404千円(繰越分)			本館保存修理工事(残金払)147,359千円(繰越分) 本館保存修理工事 331,256千円 本館保存修理工事監理委託費 77,236千円 本館保存修理工事監理委託費 63,588千円(繰分)				
特記事項(単位:千円) ※繰越,補正,流用,事業統合等				現計予算額の内、269,389千円は前年度繰越分 国支出金の内、113,196千円は前年度繰越分 市債の内、41,300千円は前年度繰越分			現計予算額の内、210,947千円は前年度繰越分 国支出金の内、88,658千円は前年度繰越分 市債の内、31,800千円は前年度繰越分				
予算執行残額(単位:千円)				(A)-(B)			269,390			213,633	

※決算額(内訳含む。)は四捨五入のため、実際の額とは異なる場合があります。

3. 前年度(R3年度)の事業検証・改善【Check・Action】

主な取り組み内容	平成31年1月15日から営業しながらの道後温泉本館保存修理工事に着手。耐震補強が完了したところから解体部分の組み立てや腐朽部分の修理工事を実施した。また、温泉設備や電気設備など各設備の更新工事も実施し、前期工事が完了した。それに伴い令和3年7月15日より後期営業を開始し、前期工事個所の又新殿・霊の湯棟に変わり、修理が完了した「霊の湯」で入浴していただいている。										
主な取り組み内容の達成度	→	↑:年度当初目標以上 →:年度当初目標どおり ↓:年度当初目標以下		左記の理由として良かった点,悪かった点など			予定どおりの工程管理ができ、順調に進捗している。				
施策への貢献度(目的の達成度を含む)	1:貢献している		左記の理由			工事を円滑に実施することで、観光への影響や経済的影響の緩和につなげている。					
事業の公共性	必要性	2	1:日常生活に不可欠(必需) 2:日常生活に不可欠ではない(選択) 3:どちらにも該当しない			公益性	1	1:より多くの市民に提供(共同型) 2:特定の個人・団体等に提供(個人型) 3:どちらにも該当しない			
R3年度終了までに把握している環境の変化,障害,課題となっている事項	後期営業しながらの道後温泉本館保存修理後期工事の本格化に伴い、交通規制等による周辺道路等の交通影響が生じる懸念があるため、地元関係者との協議により、工事の進捗に応じた適切な工事計画や対応策が必要である。				環境変化,障害,課題等解決のため,R4年度で取り組み改善策			道後温泉本館保存修理後期工事の本格化に伴い、交通規制等による交通影響の低減を図る。			
R4年度の目標	道後温泉本館保存修理後期工事を遂行するために後期営業形態の持続やフルオープンに向けての営業形態の計画策定を行う				R4年度の主な取り組み内容(予定含む)			当初予定通りの工程・工期で、道後温泉本館保存修理工事の実施に取り組んでいく。			

【活動指標】とは…事業の具体的な活動量(アウトプット/「市」が何をしたか)

【成果指標】とは…事業実施により得られる成果(アウトカム/活動の結果、「市民等」がどうなったか)

<業績の分析>

目標達成度	指標名	単位	区分	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	最終目標		
活動指標 (3つまで設定可)	道後温泉本館保存修理工事進捗率	%	目標値	20	40	50	60	70	目標値	100	
			実績値	20	40	50			達成年度	R6	
		%	達成度	100	100	100					
	指標の種類	3.累計での増加を目指す指標				最終目標値の設定の考え方		本館保存修理工事の完了			
	本指標の設定理由	本事業の進捗率を示す指標である。									
			目標値							目標値	
			実績値							達成年度	
		%	達成度								
	指標の種類					最終目標値の設定の考え方					
	本指標の設定理由										
			目標値							目標値	
			実績値							達成年度	
	%	達成度									
成果指標 (3つまで設定可)	道後温泉本館保存修理工事進捗率	%	目標値	20	30	50	60	85	目標値	100	
			実績値	20	40	50			達成年度	R6	
		%	達成度	100	100	100					
	指標の種類	4.累計での減少を目指す指標				最終目標値の設定の考え方		本館保存修理工事の完了			
	本指標の設定理由	本事業の進捗率を示す指標である。									
			目標値							目標値	
			実績値							達成年度	
		%	達成度								
	指標の種類					最終目標値の設定の考え方					
	本指標の設定理由										
			目標値							目標値	
			実績値							達成年度	
	%	達成度									
上記指標の実績に対する評価(達成又は未達成要因の分析)	活動指標	概ね当初の工程どおり進捗している									
	成果指標	平成31年1月15日から営業しながらの道後温泉本館保存修理工事に着手し、観光や地域への影響に配慮しながら、令和6年末の完了を目指して、保存修理工事は計画通り進捗できている。									
上記の指標以外に指標では表すことができない定性的な成果がある場合、その内容											